

都忘れの紫

連作和歌 百首歌集 2010/3/23-2011/1/17

8701	ゆくりなくマルコの五章ききたりし都忘れの紫あをし	れん	3月23日 17時51分
8702	高梢(たかうれ)に咲き満つ白き花辛夷 冤罪はれし人に光栄あれ	道	3月27日 14時56分
8703	千年の時を閲せし大公孫樹麗らな春に朽ちるときをば	重陽	3月28日 09時52分
8704	四句節さだかならざる花曇り恩師はゆきぬ神のみもとに	れん	3月28日 17時34分
8705	どこまでも花のトンネル続く夢出口の穴を探して歩く	やんま	4月3日 00時36分
8706	段かずら花のトンネルぬけ出でてご神木へと寄せる人波	重陽	4月3日 15時52分
8707	花はやも散らむといそぐ頃おいぞ心さわぎて桜坂まで	道	4月4日 10時03分
8708	暗きより暗きに散りし我がこころ夜明けを告ぐる復活の歌	丹仙	4月4日 10時53分

8709	相生きる橋架け合うて花愛づる芽吹き風の柔らかきかな	真奈	4月4日 13時17分
8710	倒伏のわずかに残る老いし根に芽吹かんとする徴あるらん	重陽	4月5日 19時24分
8711	イースターを迎えてけふをゆくひとの病むを解かれて永遠(とわ)のいのちへ	れん	4月5日 22時30分
8712	紫の鉢巻締めて病(いたつき)に克ちし名優由縁の桜	丹仙	4月8日 08時37分
8713	花吹雪芝居小屋へと人の群れ演技は助六江戸桜かな	弁慶	4月9日 22時21分
8714	ルノワールの少女の瞳おぼろなり目薬さして桜みせたく	水	4月12日 09時25分
8715	宵闇にほのかに浮かぶ桜あかり春の雨はも冷たくふりくる	れん	4月12日 23時50分
8716	雲晴れて桜散り舞う伊豆の空吉野の里と紛うばかりぞ	弁慶	4月15日 18時42分
8717	今日もまた寒が戻りてこの春の一首を詠むは至難なりけり	重陽	4月16日 17時39分
8718	生産者消費者泣かず酷雨なり大地育む穀雨となれよ	雛菊	4月23日 15時08分
8719	桜蕊降る足柄の峠道返り見すれば富士に白雪	弁慶	4月24日 22時09分
8720	富士の衝く宙(そら)こそ民の梁(はり)ならばいざ我ゆかん共生 (きょうしょう)の途に	頼道	5月1日 07時33分

8721	筑波嶺の峰に連ぬる道なれば桃李黙(もだ)して君を迎へむ	丹仙	5月2日 21時04分
8722	筑波嶺に虹のかかりて妹ありし昔を偲ぶ利根の架け橋	やんま	5月3日 00時35分
8723	大利根の橋を渡りて仰ぎ見る鹿島の杜の楠若葉かな	弁慶	5月3日 23時41分
8724	万博と博多どんたく開幕せり夢の橋をかけたき対岸	水	5月4日 09時57分
8725	連衆のお国自慢がとび交いて強羅の一夜歌仙巻きあぐ	重陽	5月12日 08時25分
8726	「猿房」てふ味と銘酒に酔いしれて旅の終わりの名残を惜しむ	寂	5月16日 09時32分
8727	亡き夫を連れだして来つ越の山の名残りの雪をともし見むため	道	5月17日 10時05分
8728	姫川を渡れば子不知親不知過ぎて遊女の市振の宿	弁慶	5月19日 22時31分
8729	凧らずもひとつ屋根にともに見し月の雲か萩に置く露	獅子鮫鱈	5月27日 23時55分
8730	屋根の上には金星が屋根の下には寝転んで麦酒飲む吾	やんま	6月3日 06時24分
8731	見晴るかす甲府盆地の豊饒にいにしへ人の輝きをみる	重陽	6月4日 18時31分
8732	笛吹の清き流れの行く末は我が故郷の駿河の海かな	弁慶	6月4日 21時41分

8733	魚野川見え初めにつつ故郷は寂しくあれど一日の浄土	道	6月5日 07時52分
8734	蠹魚となり泳ぐ小川の辭藻には古語なお光り螢のごとし	獅子鮫鱒	6月6日 22時16分
8735	早暁の潮を汲めば零れ散るはや夏知らず夜光虫かな	重陽	6月7日 06時19分
8736	葡萄酒を注げば光る夜光の杯蛾眉山上に半輪の月	弁慶	6月12日 17時40分
8737	清溪に君みえざるも残月を仰ぐ朝餉に山里の枇杷	獅子鮫鱒	6月14日 22時15分
8738	山枇杷の二枝手折り吾が腕に持って行きなと狭の翁は	寂	6月27日 10時00分
8739	山枇杷の高く伸びたる枝の先黄色の小さき実成群れる鳥	弁慶	6月28日 22時20分
8740	一鳥の消へゆく地平染めたるは血色とも見ゆ大きな夕日	やんま	7月3日 07時41分
8741	同病の 戦友なりな 良く通い 心の道の 先を照らすよ	真	7月3日 22時12分
8742	いくさ場に病ひで死にし萬骨や兵を殺せし軍部の無謀	獅子鮫鱒	7月18日 22時25分
8743	憲法を変えよと答申する人の心の内は如何なるものぞ	白馬	7月27日 12時23分
8744	我友の父君征きし硫黄島哀哭の念九条論議	寂	7月28日 10時49分

8745	大花火開けば今も眼裏に焼夷弾降る浅草の町	やんま	8月3日 02時57分
8746	やわやわに反戦を詠む西岡徳江の在米たばねるサイトへ今日も	水	8月5日 09時33分
8747	戦なき六十五年を笑ふなかれ國なほ存し民には長壽	獅子鯨鯨	8月9日 22時39分
8748	育まれ飢えを凌ぎて今生は憎まれつつも愛されもして	重陽	8月11日 17時41分
8749	願わくは その日その時 この足で 茶飯の出来る 治療を頼む	真	8月31日 00時31分
8750	病得て薬頼りの日々にして食べたくもあり食べたくもなし	白馬	8月31日 18時16分
8751	この夏は酷暑といふに病みもせず食欲旺盛元気澆刺	やんま	9月3日 07時23分
8752	この夏は夏大好きと言いつつも秋の夜風を待ち侘びるなり	重陽	9月3日 15時33分
8753	旗立てて人従えて 涼むのは 病の王の 車椅子	真	9月4日 00時18分
8754	早咲きの萩の花吹く朝風も音より涼しくなるにけるかも	弁慶	9月4日 21時32分
8755	新涼の朝の目覚めの清しきに紛うことなき喜寿を楽しも	重陽	9月9日 10時23分
8756	重陽のめでたき祝ひ白寿まで美麗島(うるはしきしま)意気盛んなり	丹仙	9月9日 13時23分

8757	陽を重ね紫式部色づきぬ鎌倉の海秋刀魚大漁	弁慶	9月9日 18時34分
8758	重陽に喜寿の祝ひの歌ひびき陽はまた昇る鎌倉の海 おめでとうございます!	真奈	9月10日 15時40分
8759	老いたるを実りのことと思はばやこころ豊けし交はりをこそ	重陽	9月11日 17時47分
8760	雨だれの音を聴くてふ幼子の瞳の先を婆も追ひたし	寂	9月27日 22時56分
8761	ままならぬこの世の雨を聴いている淋しきものは独りなること	やんま	10月3日 05時49分
8762	時雨れ降る夜の帳の黒々と君との別れ花小金井駅	弁慶	10月3日 21時57分
8763	掌に残る温もりいとおしみテールランプの遠ざかる見ゆ	茉莉花	10月6日 16時17分
8764	化学賞ふたつも生りて祝いけり後期高齢のホールインワン	水	10月7日 18時57分
8765	高齢の域に入るを本人は気も付きもせず日々の徘徊	やんま	11月3日 05時32分
8766	思わぬに喜寿になりては就中老いたる日々を楽しまんとなす	重陽	11月4日 05時38分
8767	四つあまり卒寿を越えて逝きし師はなほ若くありそのころざし	丹仙	11月4日 10時57分
8768	老いてなほ少年の眸の輝ける空に乱舞の蝶を見つめて	真奈	11月4日 21時54分

8769	折々に歌仙を巻きて楽しむは来し方めぐる森羅万象	重陽	11月6日 14時22分
8770	句友とは海と空とを隔てても心と詞近くにありぬ	ぽぽな	11月20日 06時14分
8771	ニューヨークより一瞬に投句する地球時代の俳諧の友	丹仙	11月22日 18時41分
8772	はらからと歌のこころを通はせていのち讃へん地に還るまで	真奈	11月24日 07時10分
8773	きのふけふ食べて歩いて明日からも霞の中を漂ふ所存	やんま	12月3日 08時53分
8774	早曉に師走の嵐去りゆきて寒暖計は夏日に近き	重陽	12月3日 15時41分
8775	寒のこの夜に自転車を漕ぎながら「恋する夏の日」を聴けり	丹仙	12月25日 18時17分
8776	年ゆくや折りを思いつ竿を振りぼうずも良しと磯を去るなり	重陽	12月26日 06時34分
8777	戦争画描きし老はプロパガンダではないしかし責任あると言う	茉莉花	12月31日 00時19分
8778	戦争を知らぬ子供も今ははや還暦過ぎて「あ・の・す・ぼ」歌ふ	丹仙	12月31日 15時30分
8779	夢いまだ彩りにあり枯蓮ほほえみ少し「あ・の・す・ぼ」に込め	真奈	12月31日 22時39分
8780	「紅白」のチャンネル切り替え聴くバッハ「口短調ミサ」にて年あらたまり茉莉花		1月1日 00時59分

8781	新しき年の初めに故郷の友より電話恙なしやと	弁慶	1月1日 21時08分
8782	例年の如くにあれど年賀状七転八倒ありありと見ゆ	やんま	1月3日 06時43分
8783	冬型という列島の三が日懐かしきかな北は北なり	重陽	1月3日 08時37分
8784	弓状の列島に住む民なれば国の行方を思ふ此の年	真奈	1月3日 19時50分
8785	破魔の弓もとめし四日とうとうと流るる「イムジン河」を聴く	丹仙	1月4日 11時01分
8786	旧臘に逝きし恩師を”偲ぶ会”四日を待ちて日取り決まりぬ	重陽	1月5日 08時02分
8787	偲ばるる恩師は永久に美しくその立ち姿古拙の微笑も	茉莉花	1月6日 11時34分
8788	破魔矢にも上中下の値札あり はずこの沙汰もカネがなるなり	水	1月6日 19時43分
8789	お金では手に入らないものがある雪と雪との間にも雪	ぼぼな	1月8日 07時25分
8790	わたくしと私の中に友ありて新春の歌詠み継がれゆく	丹仙	1月9日 14時15分
8791	桃李にて継ぎ交わせ来し歌と歌それぞれ醸す折々のこと	重陽	1月10日 05時30分
8792	後先になりてもいつか伴走すももすももなりともに生きるは	真奈	1月12日 06時05分

8793	遠ざかることも良きかな懐かしく帰る場所ともなる時を経て	茉莉花	1月12日 13時40分
8794	夜通しの雪に朝の陽降り注ぐああ早く良くなりますように	ぽぽな	1月13日 05時37分
8795	夏の日々ひねもす猛暑に喘ぎけり極寒なれば暑の季も恋し	水	1月13日 09時40分
8796	赤い実の熟れるを待ちて朝なさを競いて今朝は啄みゆけり	重陽	1月16日 06時24分
8797	奪はれし妻の言葉ぞ戻りける介護喜ぶ便り今朝着く	丹仙	1月16日 18時34分
8798	心弱くなりしときには西方に懐かしき顔ちちははの笑み	真奈	1月16日 23時51分
8799	生前はたまの電話にかまけたり思い朝なに遺影の父母に	重陽	1月17日 05時55分
8800	リハビリの病室を訪う娘らの帰路気遣う母九十七歳	茉莉花	1月17日 11時49分